

[かな-9], [総-15] 送りがなのつけ方に関する

語の構造別語例一覧

告示「送りがなのつけ方」のまえがきにある3か条の第1の方針、「活用語およびこれを含む語は、その活用語尾を送る。」だけによって送りがなを処理した場合、現行の通則の語例がどのような送りがなになるかを示したものが、前回提出した資料「活用語尾に限定した送りがなについて」[総-13]である。

これによって、すでに明らかなように、送りがなは活用語尾を送るという原則だけでは処理しきれないので、品詞別に立てられている現行の通則から離れて、問題別・構造別に語例を集めたこの資料によって、別の観点から、この問題を検討していくこととする。

語例一覧の組み立て

単 独 の 語

I 活用する語

- 1 活用語尾を送るだけで、問題がないと思われる語例
- 2 活用語尾以外の部分も、送る必要があるかどうか、検討を要すると思われる語例
 - (1) 他の語の活用語尾、または、それに準ずるものを含むもの
 - (2) 他の語の語幹を含むもの
 - (3) 自他の対応関係にあると思われるもの
 - (4) 接尾語、または、他の語を伴っていると考えられるもの
 - (5) 誤読・難読のおそれがあると思われるもの
 - ア 現行の通則で、活用語尾の前の音節から送っているもの
 - イ その他、活用語尾の前の音節から、送る傾向があると思われるもの

II 活用しない語

1 送りがなをつけないでも、問題がないと思われる語例

2 活用しない語でも、送りがなをつけるかどうか、検討を要すると思われる語例

- (1) 活用語の連用形が、名詞的に用いられるもの
- (2) 活用語の語幹に、「さ・み・げ」などがついて、名詞となったもの
- (3) 活用語を含む副詞・接続詞など
- (4) 誤読・難読のおそれがあると思われるもの

ア 活用しない語でも、現行の通則で送っているもの

イ その他、本来の名詞であっても、送るかどうかが、検討を要するもの

3 活用語尾が考えられても、送るかどうかが、検討を要すると思われる語例

- (1) もとは、活用語であっても、現代では名詞と考えられるもの
- (2) 同じ語形であっても、送りがなを書き分けるかどうか、検討を要すると思われるもの
- (3) 表に記入したり、的記号に用いたりするもの

複 合 し た 語

I 活用する語

1 複合語の、おのこの活用語尾を送るかどうかが、検討を要すると思われる語例

- (1) 活用語、または、名詞と活用語とが結びついたもの
- (2) 上の語が、接頭語的に用いられていると思われるもの

II 活用しない語

1 送りがなをつけないでも、問題がないと思われる語例

2 送りがなをつけるかどうか、検討を要すると思われる語例

ア 現行の通則で送っているもの

イ 現行の通則のただし書きで、送りがなを省いてもよいとしているもの

ウ 現行の通則では、原則として送りがないとされているもの

3 送りがないか、つけないか、判断に迷うと思われる語例

4 同じ語形であっても、送りがないか、検討を要する語例

単 独 の 語

I 活用する語

1 活用語尾を送るだけで、問題がないと思われる語例

書く 試みる 受ける 来る 勉強する

赤い 美しい

元気だ

2 活用語尾以外の部分も、送る必要があるかどうか、検討を要すると思われる語例

(1) 他の語の活用語尾、または、それに準ずるものを含むもの

浮	{ (く) かぶ ぶ	向	{ (く) かう う	語	{ (る) らう う	計	{ (る) らう う
縮	{ (む) まる る (める)	積	{ (む) もる る	振	{ (る) るう う	休	{ (む) まる る (める)
押	{ (す) さえる える	捕	{ (る) らえる える				

勇	{ (む) ましい しい	輝	{ (く) かしい しい	頼	{ (む) もしい しい	恐	{ (れる) ろしい しい
---	--------------------	---	--------------------	---	--------------------	---	---------------------

疑	{ (う) わしい しい	望	{ (む) ましい しい	好	{ (む) ましい しい	恨	{ (む) めしい しい
---	--------------------	---	--------------------	---	--------------------	---	--------------------

誇	{ (る) らしい しい	紛	{ (れる) らわしい わしい	恥	{ (じる) ずかしい かしい
---	--------------------	---	-----------------------	---	-----------------------

晴	{ (れる) れやかだ やかだ	冷	{ (える) (やす) ややかだ やかだ	伸	{ (びる) びやかだ やかだ
---	-----------------------	---	-------------------------------	---	-----------------------

(2) 他の語の語幹を含むもの

(注) 以下の語例の中には、(4)の接尾語を伴う語と関連のあるものはいっ
ている。

怪	{ しい しむ	悲	{ しい しむ	卑	{ しい しむ	弱	{ (い) まる (める)
薄	{ (い) まる (める)	確	{ (かだ) かめる	暖	{ (かい) (かだ) まる		

重	{ (い) (んずる) たい	憎	{ (い) (む) らしい たらしい	古	{ (い) (びる) めかしい	厚	{ (い) かましい
細	{ (かだ) かい	柔	{ (らかだ) らかい	愚	{ (かだ) かしい		

清	{ (い) (める) らかだ	高	{ (い) (ぶる) らかだ	安	{ (い) (まる) (める) (んずる) らかだ
---	----------------------	---	----------------------	---	---------------------------------------

(3) 自他の対応関係にあると思われるもの

動	{ (く) かす す	驚	{ (く) かす す	働	{ (く) かす す	励	{ (む) ます す	及	{ (ぶ) ぼす す
曇	{ (る) らす す	果	{ (てる) たす す	満	{ (ちる) たす す	暮	{ (れる) らす す	絶	{ (える) やす す
燃	{ (える) やす す	落	{ (ちる) とす す	尽	{ (きる) くす す	滅	{ (ぶ) (びる) ぼす す	終	{ (える) わる る
変	{ (える) わる る	伝	{ (える) わる る	集	{ (める) まる る	始	{ (める) まる る	決	{ (める) まる る
預	{ (ける) かる る	授	{ (ける) かる る	助	{ (ける) かる る	連	{ (ねる) なる る	生	{ (む) まれる れる
埋	{ (める) もれる れる								

(4) 接尾語、または、他の語を伴っていると考えられるもの

(注) 以下の中には、送りがなの審議の対象から除外できるとされるもの、

および接尾語と認めるのに問題があると思われるものもはいつている。

(づく)	近 — づく	色 — づく	縁 — づく
(のく)	遠 — のく		
(さす)	指 — さす		
(んずる)	重 — んずる	軽 — んずる	(先 — んずる)
(がる)	苦し — がる	広 — がる	群 — がる
(やぐ)	若 — やぐ		
(ぶる)	高 — ぶる	偉 — ぶる	
(ばむ)	黄 — ばむ	汗 — ばむ	気色 — ばむ
(めく)	春 — めく	色 — めく	
(なる)	連 — なる		
(まる)	弱 — まる	静 — まる	

(たい)	平 — たい	重 — たい	冷 — たい
(らしい)	愛 — らしい	憎 — らしい	女 — らしい
(かましい)	厚 — かましい		
(たらしい)	憎 — たらしい		

(げ)	悲し — げ	苦し — げ	
(た)	新 — た		
(か)	静 — か	確 — か	暖 — か
(ら)	平 — ら	赤 — ら	
(らか)	明 — らか	高 — らか	柔 — らか
(やか)	穏 — やか	健 — やか	

(きい)	大 — きい
(さい)	小 — さい
(るい)	明 — るい

(5) 誤読・難読のおそれがあると思われるもの

ア 現行の通則で、活用語尾の前の音節から送っているもの

表	{ わす す	著	{ わす す	現	{ われる れる	行	{ なう う	異	{ なる る
脅	{ やかす かす す (える)	群	{ らがる がる る (れる)	断	{ わる る	和	{ らぐ ぐ		

明	{ かるい るい い (きらか) (らか) (ける)	少	{ くない ない い (すこし)	危	{ うい い	大	{ きい い
		小	{ さい い	冷	{ たい い	平	{ たい い

新	{ ただ だ	静	{ かだ だ (める)	確	{ かだ だ (かめる)	平	{ らだ だ (らげる)
穩	{ やかだ かだ だ	健	{ やかだ かだ だ	明	{ きらかだ らかだ かだ だ (ける) (るい)	朗	{ らかだ かだ だ

イ その他、活用語尾の前の音節から、送る傾向の見られるもの

(行なう)	商(な)う	失(な)う	占(な)う	補(な)う
償(な)う	伴(な)う			
敬(ま)う	繕(ろ)う	通(よ)う		
促(が)す	任(か)す	侵(か)す		

貫(ぬ)く	働(ら)く	驚(ろ)く			
実(の)る	絞(ぼ)る	上(ぼ)る	悔(ど)る	滞(お)る	
憤(お)る					
誤(ま)る	余(ま)る	迫(ま)る	怠(た)る	免(か)れる	
偽(わ)る	承(わ)る	回(わ)る			
被(む)る	葬(む)る	翻(え)る			

II 活用しない語

1 送りがなをつけないでも、問題がないと思われる語例

月 花 春 弟

2 活用しない語でも、送りがなをつけるかどうか、検討を要すると思われる語例

(1) 活用語の連用形が、名詞的に用いられるもの

(2音)
 当て 荒れ 行き 入り 受け 売り 買い 貸し 勝ち
 借り 切れ 悔い 暮れ 刷り 連れ 投げ 果て 振り
 引き 減り 彫り 負け 向き 焼き 酔い 読み 割り

(3音)
 遊び 余り 写し 憂い 送り 遅れ 押(さ)え 上(が)り
 教え 踊り 覚え 歩み 泳ぎ 終(わ)り 帰り 飾り
 語り 構え 代(わ)り 聞(こ)え 曇り 暮(ら)し 締(ま)り
 住(ま)い 育ち 作り 続き 勤め 通り 届け 止(ま)り
 直し 流し 流れ 願い 眠り 残り 残し 初め
 控え 参り 曲(が)り 守り 休み 破れ 別れ 笑い

(4音)
 商い 味(わ)い 行(な)い 固(ま)り 語(ら)い 企て
 戦い 慰み 始(ま)り 催し 装い 煩い

(2) 活用語の語幹に、「さ・み・げ」などがついて、名詞となったもの

(さ) 重たさ 楽しさ 安らかさ
 (み) 憎しみ 明るみ (げ) 借しげ

(3) 活用語を含む副詞・接続詞など

少なくとも 大いに 決して 絶えず 初めて 従って
及び 並びに 因って

(4) 誤読・難読のおそれがあると思われるもの

ア 活用しない語でも、現行の通則で送っているもの

哀れ 後ろ 幸い 互い 半ば 情け 斜め 誉れ 災い

必ず 少し 再び 全く 最も 直ちに 特に 常に

イ その他、本来の名詞であっても、送るかどうかが、検討を要すると思われるもの

(3音) 間 価 値 頭 油 主 ※哀れ 泉 命
 ※後ろ 器 漆 夫 男 表 面 女 蚕 鏡 形
 刀 鎖 鯨 葉 位 車 獸 心 曆 衣 境 桜
 姿 ※互い 宝 卵 俵 力 机 堤 鼓 翼 劍
 峠 所 ※半ば ※情け ※斜め 鉛 涙 柱 裸
 畑 林 東 額 左 羊 袋 仏 炎 ※誉れ 誠
 眼 操 緑 港 南 都 昔 娘 盲 基 社 柳

(4音) 曉 礎 妹 公 弟 雷 冠 紅 寿 杯
 ※幸い 侍 魂 鶏 幻 陵 湖 源 紫 ※災い

(5音) 政 詔

※印の語は、現行で送っているもの。

3 活用語尾が考えられても、送るかどうかが、検討を要すると思われる語例

(1) もとは、活用語であっても、現代では名詞と考えられるもの

頂(き) 帯(び) 趣(き) 畳(み) 隣(り)

(通則16)

卸(し) 組(み) 恋(い) 志(し) 次(ぎ) 富(み)

恥(じ) 話(し) 光(り) 舞(い) 卷(き) 雇(い)
 (通則17)

折(り) 狩(り) 肥(え) 間(い) 謡(い) 扇(ぎ)
 虞(れ) 係(り) 掛(かり) 煙(り) 氷(り) 答(え)
 印(し) 使(い) 包(み) 務(め) 響(き) 祭(り)
 病(い)

(第4期, 資料[正10]から。)

勝ち 借り 売り 入り 悔い 暮れ 連れ 止め 投げ
 引き 彫り 負け 焼き 酔い 割り 写し 踊り
 終(わり) 晴れ 曇り 休み 届け 眠り 守り 控え
 戦い 渡し

(2) 同じ語形であっても, 送りがなを書き分けるかどうか, 検討を要すると思わ
 れるもの

(話しをきく 話しする お話する)	(臨時雇い 雇いの人)	(紅葉狩り 狩りに行く)	(受付係り 係りの人)				
				(間い1 間いを発する)	(舞いも踊りも)	(すき焼き 焼きをいれる)	(明石の巻き 巻きがゆるい)
(終 終り 終わり)	(綱引き 引きが強い 親の光りは七光り)	(二日酔い 酔いがまわる)	(3年2組み 組みになる)				

(3) 表に記入したり, 記号的に用いたりするもの

晴(れ) 曇(り) 間(い) 答(え) 終(わり)
 生(まれ) 押(す) 引(く) 受(け) 入(り)

複 合 し た 語

I 活用する語

1 複合語で、おのおのの活用語尾を送るかどうか、検討を要すると思われる語例

(1) 活用語、または、名詞と活用語とが結びついたもの

(1音)

(見入る 居直る 射落とす 着流す 干上がる)

(2音)

編み上げる	言い張る	行き当たる	入り乱れる
受け取る	埋め立てる	売り渡す	追い出す
押し寄せる	折り曲げる	買い込む	掛け合う
書き留める	駆け回る	勝ち進む	借り受ける
聞き入れる	切り開く	食い詰める	組み合わせず
締め出す	知り合う	吸い上げる	住み込む
刷り上がる	染め変える	抱き合う	継ぎ合わせず
突き刺す	詰め替える	連れ込む	召し上げる
飛び立つ	泣き叫ぶ	投げ入れる	縫い合わせず
塗り立てる	乗り入れる	恥じ入る	吹き荒れる
巻き上げる	焼き払う	呼び返す	

(3音)

洗い立てる	痛み入る	移り変わる	恐れ入る
思い付く	語り合う	凍え死ぬ	忍び込む
備え付ける	使い込む	作り直す	通り過ぎる
流し込む	払い出す	届け出る	願い出る
話し合う	丸め込む	紛れ込む	譲り渡す
雇い入れる			

聞き苦しい	待ち遠しい	蒸し暑い	有り難い
情け深い	後ろ暗い	誉れ高い	

(2) 上の語が、接頭語的に用いられていると思われるもの

打ち切る	打ち合わせる	打ち消す
差し出す	差し止める	差し引く
取り組む	取り消す	取り次ぐ
成り上がる	成り変わる	成り立つ
引き返す	引き出す	引き払う

Ⅲ 活用しない語

1 送りがなをつけないでも、問題がないと思われる語例

山桜 村里 野原 富士川

2 送りがなをつけるかどうか、検討を要すると思われる語例

ア 現行の通則で送っているもの

心構え 物知り 山登り 顔合(わ)せ 風当(た)り
荒削り 大掛(か)り 大向(こ)う 小商い

不入り ほろ酔い

教え子 考え方 続き物 包み紙 入れ墨 捨て身 眠り薬

歩み寄り 見送り 読み書き

埋め合(わ)せ 飼い殺し 取り計(ら)い

行き当(た)り 向(か)い合(わ)せ

負け惜しみ

イ 現行の通則のただし書きで、送りがなを省いてもよいとしているもの

帯止(め) 気持(ち) 綱引(き) 封切(り) 金詰(ま)り

心当(た)り 身代(わ)り 大向(こ)う 編(み)物

受(け)身 掛(け)図 死(た)時 合(わ)せ鏡

打(ち)切り 売(り)出し 落(ち)着き 申(し)込み
 取(り)締(ま)り 果(た)し合い 向(か)い合(わ)せ
 書(き)入れ時 打(ち)合(わ)せ会

ウ 現行の通則では、原則として送りがないとしているもの

献立 座敷 関取 手当 頭取 仲買 場合 番付 日付
 歩合 物語 役割 屋敷 夕立 両替 …係 …割 小包
 植木 織物 係員 切手 切符 消印 立場 建物 請負
 受付 受取 書留 組合 踏切 振替 割合 割引
 貸付金 借入金 繰越金 積立金 取扱所 取締役 取次店
 取引所 乗換駅 乗組員 引受人 振出人 待合室 見積書
 申込書
 浮世絵 小売商 代金引換

3 送りがないをつけるか、つけないか、判断に迷うと思われる語例

受持 打消 討死 埋立地 売上金 追分 書置 書取
 借着 切替 差出人 締切 吸取紙 背負投 立会人
 出入口 煮干 乗合 引揚者 引込線 振付 待合 見舞
 召使 呼出 割増 赤出 天引 留針 泣声 腸詰 刷物
 玉突 飼主 置物 借手 吸口 揚足 駆足 売子 迷子
 跡取娘 打上花火 大入袋 駆落者 気取屋 口止料 髪結業
 手切金 夕焼雲 寄合世帯 掘出物

4 同じ語形であっても、送りがないを書き分けるかどうか、検討を要する語例

（行きはよい
 大阪行き

（受け持ちの先生
 その仕事は、ぼくの受け持ちだ

（受け取りを書く
 受け取りに行く

（受け付けできく
 受け付けを始める

（手当てをもらう
 傷の手当てをする

{ 踏み切りでの事故
{ 足の踏み切りに失敗する

{ 協会の取り締まり (役職)
{ 取り締まりがきびしい

{ すもうの年寄り
{ 年寄りをいたわる